

美術館、博物館における作品のデジタル化

06L4393 小田千晶

1. 美術館・博物館におけるデジタル化の動向 (2010.1.14 時点)

(1) 「World Digital Library」(2009 年 4 月公開)

UNESCO が中心となり、BC8000 年～AD2010 年に作成された印刷物、写真、地図、書籍、写本、記事、動画、録音資料を 1235 点(日本は 33 点)公開。

(2) 「Europeana」(2008 年公開)

EU の欧州委員会が中心となり、2008 年に公開された。約 600 万点の画像、テキスト、音声、動画が公開されている。

(3) 「文化遺産オンライン」(2008 年公開)

文化庁と総務省の提唱した「文化遺産オンライン構想」により、全国の博物館・美術館等から提供された情報や国宝、重要文化財の国指定文化財に関するデータ等を 17035 点公開。

2. 作品の見せ方の調査結果

(1) 紹介写真と解説



プラド美術館ホームページ
Velazquez 「The family of Felipe IV」

(2) 代表的な収蔵品のインタラクティブな解説



アムステルダム美術館ホームページ
Rembrandt 「The night watch」

(3) 音声による解説



ルーヴル美術館ホームページ
「ループで見るモナリザ」

(4) ビデオによる解説



シャーロックホームズ博物館ホームページ

(5) 仮想ギャラリー



ウフィツィ美術館ホームページ「3D Visit」

(6) 特定テーマ別の解説



エルミタージュ美術館ホームページ

(7) タイムライン



アムステルダム美術館ホームページ「Time line」「MEDALS:

THE MIRROR OF HISTORY」

3. 考察

作品のデジタル化においては以下のような問題がある。

- (1) デジタル技術においては質感の向上（遠隔存在感技術や人工現実感技術等）と長期保存（エミュレーション、マイグレーション等）への対策
- (2) 権利問題（著作権等）については電子透かし等の不正使用を防ぐ技術の開発
- (3) 各美術館・博物館の足並みが揃っていないことと、多額の費用がかかること、専門家が不足していること
- (4) 多言語データベースが必要
- (5) 認知度がまだまだ低いので、プロモーション活動等が望まれる